

子ども達へ向けた、男女共同参画の推進 子ども達が輝ける未来のために

公募の市民などから構成される「都留市男女共同参画推進委員会」は、今年度で第12期目となり、13名の委員により啓発活動を行っています。

12期メンバーは、「子ども達へ向けた、男女共同参画の推進」をテーマに、子どもの頃から、男女共同参画について考えてもらう取り組みを行っています。

そこで今回は、「健康安全郷育プログラム」を考案・提供し、子ども達にかけがえのない命の大切さ、命を守る術を教えている「リズムオブラブ」代表の渡辺光美先生にお話をうかがい、テーマの中でも特に、「デートDV」などの、若年層において表面化しにくい課題などについて対話を行いました。



親と子の距離って？

加藤

私には、高校生の娘がいます。実際に子ども自身に危険が迫った時のことを考えると、自ら助けを求めるとは本当に難しいと感じます。特に、子どもにも起こりうるデートDV（交際相手から受ける暴力）など、潜在的なケースもあります。親として家庭で教育を行っていく上で、のアドバイスはありますか。

渡辺

幼い頃から「助けて」と言える教育を積み重ねることや、助けを受け止めて聴いてくれる人がいることがとても大切です。家庭はもちろん地域においても普段から悩みを話せる信頼できる人間関係を築くことが理想だと考えています。

被害者にならないための教育に加え、加害者をつくらない教育の必要も感じています。

織田

私にも、小学生の娘がいます。これから多感な時期になり、また行動範囲も広がっていく、親と子との距離感やコミュニケーションの方法を考える場面があります。

渡辺

距離感とは「^{まあい}間愛」が大切な距離です。これは、子育てにおける適切な距離の目安として離してはいけないものは、乳児期には「肌」、幼児期には「手」、これは常に手の届く範囲に置くという意味です。そして小学生からの児童期には「目」、中学生以降には「心」です。近年の事件などを見ても、これらが欠落したことが起因しているように思えます。

一つの考え方ではありませんが、逆に言えば、これらが繋がっていれば、物理的な距離について心配しすぎることはないのとも考えます。

委員さんの推薦図書

幼児〜小学校低学年向け



『うみとりのく
からだのはなし
(性とからだの絵本)』

作 遠見才希子・
絵 佐々木一澄
童心社

おすすめポイント

うみとりのくのお話を読みながら、プライベートゾーンや性的同意、からだの自己決定権について学べる1冊。子どもに「性」を伝える絵本です。

小学校高学年〜大学生向け



『VOICE
自分で選ぶための
性の知識』

シオリーヌ(大貫詩織)著
イーストプレス

おすすめポイント

助産師であり、YouTuberで「性」にまつわる情報を

都留市男女共同参画推進委員会 12期メンバー



中野委員 加藤委員 織田委員



渡辺 ^{みつみ} 光美先生

PROFILE

山梨県生まれ、甲府市在住。
都留文学大学卒業後、公立小学校・幼稚園の教諭を20年間務めた。2009年に「かけがえのない大切な命を自分で守る心と体づくり」を目的とした市民団体「リズムオブラブ」を設立。乳幼児から高齢者まで幅広い年齢層を対象とし、参加者の体力や環境に応じた、自身考案の「健康安全郷育プログラム」の指導を行っている。

子ども達 「生き抜くための教育」 と男女共同参画

渡辺 大学時代、「男女の（性の）違い」などについて、学校の現場でふれる機会があまりないことを疑問に思い、論文にしました。現在は、小中学校などで「健康で安全に生き抜くための教育」として周知活動を行っています。

加藤 親世代がこれまで受けてこなかった、性に関する教育やインターネットなどの情報から受ける影響について、親が子どもに教えていくことは難しいなと思っています。幼い頃から「知らない人」にはついて行かないという教えは受けませんが、「知っている人」との距離感については、危険を推知する点で、認識が薄いと思っています。昨今、SNSの繋がりになどにより、「知っている人」とのトラブルが増えているように感じます。

渡辺 「知っている人」の定義づけや「信用できる人」の認識のすり合わせをあらためてこ

家庭で行うことが大切です。また、「知っている人」であっても、SNSやメディアから受け取る情報などが原因で、トラブルが起きるケースが多いようです。

これについても、男女の心と身体の違いや、情報の受け取り方についての概念を子ども頃から等しく教育していく必要があると思っています。

中野 こついつた教育について、先進的とも言える海外では、どのような指導が行われているのでしょうか。

渡辺 親が子供に男女の心と身体の違いや、自分を守るという事を、幼いうちから子どもの発達にあわせて教えることが多いようです。



発信をしている著者が、性の知識を分かりやすく教えてくれる、コンパクトに学べる性教育の入門書の1つです。

保護者・
子どもの教育に携わる方向け



『子どもと性の話、はじめませんか？』

からだ・性・防犯・ネットリテラシーの「伝え方」

宮原由紀著・

高橋幸子監修

CCCメディアハウス

おすすめポイント

命育のサイトやSNSの発信を基に書かれた本です。

「性教育をしたいけど、どうしたらいいかわからない」「子どもの質問にどう答えたらいいのか分からない」という方の疑問に答えてくれる身近で実践的な1冊です。



推薦人..

12期メンバー

高橋委員

一人ひとりが輝くために

全委員

2年間、男女参画推進委員で活動を行っていく予定ですが、当初掲げたテーマ「子ども達へ向けた、男女共同参画の推進」の活動を行っていくにあたり、改めてアドバイスなどがありますか。

渡辺 都留市の子ども達や保護者の方々と活動を行う機会がこれまで何度かありました。

都留市の放課後の学童自身が、保護者主体で支えられていたという背景もあるからなのか、山梨県下でも都留市の保護者さんは安全・安心に関する意識や、地域活動などに関しても関心が高く、主体的でいうっしやるように感じます。このような地域性から委員さんの活動自体を活発に行っていくにあたり理解されやすく、受け皿も多々あると思っています。今期のテーマに関する活動もぜひ積極的に行っていただきたいです。

都留市で既に国際認証を受けているセーフコミュニティの取り組みとも併せて、今後一緒に活動できればと思っています。



問合先 地域環境課 地域振興担当

デートDVなどのケースは、件数が増えてきているものの表面化し難く、また相談場所や方法などを周知する媒体も少ないです。

デートDVを知るためにも、是非動画をご覧ください。

知ろう！防ごう！デートDV

基礎編



実践編



「これってDV？」悩んだら、まずは相談しましょう。

暴力には、殴る・蹴る・髪をひっぱるなどの身体への暴力だけでなく、大声で怒鳴る・交友関係を制限する・生活費を渡さない・性行為や中絶の強要など、精神的・経済的・性的な暴力も含まれます。近年では、交際相手からの暴力(デートDV)の被害も深刻化しています。

DVは、ひとりでは解決が難しいデリケートな問題です。誰にも相談できないうちに被害がエスカレートしてしまう可能性もあります。

かけがえのない命を守るためにも、1人で悩まずに、ぜひ相談してください。

- 内閣府Cure Time(SNS相談、メール相談) <https://curetime.jp>
- 内閣府 性犯罪・性暴力被害者のためのワンストップ支援センター ☎#8891
- 「かいさぼももこ」(やまなし性暴力被害者サポートセンター) ☎055(222)5562
- 警視庁性犯罪被害相談電話 ☎#8103
- 内閣府 DV相談ナビ ☎#8008
- 山梨県警察総合相談室 ☎#9110
- 山梨県女性相談所 ☎055(254)8635
- 山梨県立男女共同参画推進センター ぴゅあ総合 ☎055(237)7830
- 山梨県警察大月警察署 ☎(22)0110 ※緊急時は110番
- 女性の人権ホットライン ☎0570(070)810
- 本市の相談窓口 健康子育て課 ☎(46)5113